

山あり 川あり 産物あり

恵まれて豊かな将来性
人までそれによって
期待される

上・益・城・ル・ー・ト

施策は「道」から

熊本県上益城事務所長 富永棟康（談）

施策の第一は何といつても関連の広い道路の改修、特に熊本・蘇陽（馬見原）間の幹線道路を完成することですね。それから益城台地の畑地灌漑、これは地下水の利用でやりたいし、甲佐、矢部地方の灌漑は緑川のダム建設によつて発電と治水をかねてやりたいと思います。治水といえば昨年の七・二六水害で嘉島村、益城町（飯野）に八〇〇町歩の冠水を出した加勢川の改修について、熊本市とともに本省へ猛運動を続けています。

産業面では旧来の矢部牛や矢部茶は勿論、平坦部（旧豊秋中心）の酪農、早期栽培、これは昨年一〇〇町歩実施して非常に好成績だったので、今年は五〇〇町歩を目標に実現を期しています。なお地下水利用による益城台地の畑地灌漑、緑川のダム建設による矢部、甲佐方面の灌漑も私の描いている構想の一つです。

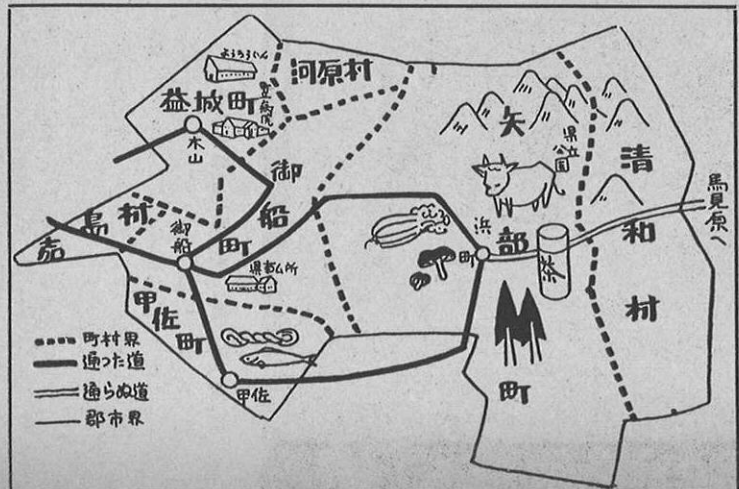
最後に観光施設、県立公園、矢部周辺のすばらしい景観は、知る人ぞ知るところが現況、今後はぜひ知らぬ人にも知らせて、天下の矢部公園にしたいと思っています。

先ず健康を目標

益城町 旧木山町、津森、福田、人口二万二千 広安、飯野各村

三月十三日の雨の中、町の中根木山でバスを下り、町裏の台地に新築の役場を訪うと、吉田町長は不在で陳総務課長に逢う。

この町長吉田定さんは戦前の県議を二回も勤めた有名人、ベレー帽をかぶって飛廻る若々しさで、皆におやしおやじ



と親しまれている。合併の手際といい、その後の運営といい、模範的だとあつて廿九年の四月に宇土町と共に大臣賞を獲得、さらに今年一月には全国町村長会から本県唯一の表彰を受けた。

町政の最重点は明るく健康な町づくりだといので、先ず立派な町立総合病院を建て、昭和三十年からは全町国民健康保険に加入した。

病院は目下増築中だが、心配された私立病院への影響もなく、施設の完備（医師四名）と入院費の軽減で町民の感謝を得ている。次に目下建築中の養老院を見る。町はずれの城山という台地、便利だし眺望もい、ので収容の老人たちには楽園だろう。予定人員は三十名でこの四月

には開院のみこみ。広安には保育所があり、飯野も四月から始める。

今一つこの自慢は青年建設班だ。今年の二月一日から始めて三月末に終るが総員二十五名、「農山漁村建設青年実践活動促進要項」（少々長過ぎる）に基づき、昼は作業夜は学科の真摯な生活を続けている。成績がい、ので来年も引続きやる予定、女子も加えたいというのが町当局の意向だ。

書きもろしたが助役は富永愛夫氏、収入役が福島仙蔵氏というスタッフ。

町の象徴 若い町長

浜 旧浜町、御岳、白糸、下
人口二万六千 矢部、中島、名連川各村

高村町長の若さに驚いた。せいせい三十四五と思つたが御当人の話では十才は上らしい。

旧白糸の村長になつたのは終戦後、以来引続きだといから県下でも古顔の町長だ。二度ビツクリというところ。役場も新築で広く明るい。この町長にこの庁舎、町の潑刺たる生気を象徴している感じた。

抱負は？という平凡な質問に、青年のように純真な情熱を澄んだ瞳に見せて語り出す。

「何せ町民の個人収入は県平均より一割も低いのですから、少くとも現在の三割増をねらつて五カ年計画を推進中ですよ。」

三百平方キロの広大な土地に人口が二万六千という大きな町、山が多いが田と畑の比率は二対一だとい。

「矢部牛は有名ですが普及の限度に

ているし、農村機械化の影響もあるので、肉牛への転換をはかる一方、中島あたりでは酪農も始めています。その他矢部茶、木材、木炭、それに椎茸や白菜が将来性をもっています。」

「矢部周辺の県立公園は？」

「観光資源は豊富ですから、道路の改修と宣伝一つでは相当な旅客を引けると思います。温泉でも掘り当てたら鬼に金棒といところですが……」

「町政のカベは何ですか」

「何といつても金ですね。合併前に村有財産でいろいろ事業をやつているので、合併後の仕事は新農山漁村として指定された線を実現するのに大奮です。」

やつぱり金か、この悩みはしかし浜町だけのことではなく全日本の悩みだらなこの町には矢部農高があつて、地元の農業に科学的な裏付けをしていることが一つの強味といえる。

名物は養蚕と鮎

甲佐 旧甲佐町、白旗、龍野、
人口一万九千 乙女、宮内各村

「産業には先ず養蚕をあげますナ」不在の沢田町長に代つて松永助役はこう喝破した。今どき養蚕第一とは一寸珍しいが、全部の六、七割を占めているといから無理もない。そういえば緑川製糸というのがこの町に出来たのは明治八年、日本でも二番目に古いといのだから土台ケタががらう。尤も今では愛媛県の資本で酒六製糸というのが後を受けている。町では蚕の神様を祀り、毎年四月

例祭をやるといのも珍しい行事といえよう。

その他では竜野を中心とした酪農、これは頭数五〇〇、県下でも隠然たる勢力だ。

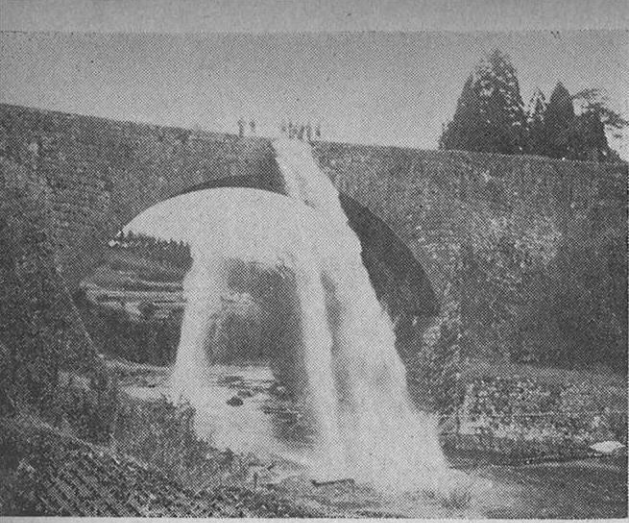
新興産業としての柑橘は、晩生で皮が厚く酸味が強いのが取り柄、貯蔵がきくので河内、小天などの先進地産品が出たアトを狙つている。県の試験場でも指導を怠らず、佐間野には苗圃もできているとい。

道路改修は本郡行政の重点だとは別項富永所長の話にもあるが、甲佐町には道路愛護会が自発的につくりられ、町当局のバックアップで大いに成績をあげている。その詳細は本紙でも紹介した通りだし甲佐名産は何といつても緑川の鮎に止めを刺す。

「球磨川のとどつちが美味しいですか」と水を向ければ、鮎つりでは自他ともに許す村上厚生課長、ガ然りきつてアユ談義にのり出す。

「ところ自慢でどこも自分の土地のが一番だといいますが、淵のよりは瀬のやつがうまいし、捕つたのは一晩おいて脱糞させると身がしまつてうまい。もつともそうすると一割方目方はへるが、肝臓が肥大して苦味を増すのが食通には魅力です。釣つてすぐ食べば身がやわらかくてダメですよ。だから一口にうまいの拙いといつても釣つた時とところ、食う時などによつて一がいにいえないのですよ」

佐藤垢石老と釣論をやつたという村上さんの鮎に対するウチンクは、鮎のウソにまで及んで尽くるを知らない。



布田保之助のつくつた通潤橋……………★